

AMBITIOUS #058  
太陽化学株式会社  
食品製造

今を全力で  
楽しむ!

勤務先情報/ 太陽化学株式会社

- 住所 四日市市山田町800
- URL <http://www.taiyokagaku.com/>
- 勤務時間 8:00~17:00、(交替勤務)12:00~21:00、20:00~5:00
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

アンビ  
ジャスの

なるためには

- 必要資格 / フォークリフト免許 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→食品を製造する企業に入社→フォークリフト免許を取得

食品製造

——学生時代

「高校時代は軽音楽部に入っており、バンド活動に没頭していましたね。わたしはギターを担当し、文化祭などでも演奏しました。大勢の前で演奏した経験のおかげで、人前で発表するときなども緊張せずにできるようになりました」

工業高校では、どのようなことを勉強しましたか？

「溶接や旋盤などの実技的な勉強が多かったですね。二級ボイラー技士や危険物取扱者などの資格も取得しました。高校卒業後は、高校に来ていた求人票のなかから選び、食品の開発・製造などをおこなう太陽化学に就職しました。食品は、人々が絶対に摂取するもの。そういうものを作る仕事に就けば、世の中に貢献できると思い、食品関係の会社を選びました」

——仕事について

「入社後の1年間は研修期間。いろいろな部署を回り、さまざまなフルーツの加工品やジャムなどの製造工程、カップ麺に入っている乾燥食品などの製造工程を経験しました。研修中、先輩から『報告・連絡・相談』の大切さを教わりました」

研修を終えたあと、最初に任された仕事は何ですか？

「いまの部署に配属後、まず物品の発注を任せられました。食品の製造工程で油を使うのですが、油をろ過するときに使用する、ろ紙の発注。廃油を捨てるドラム缶の発注などが主な仕事でしたね」



写真2

現在の仕事内容を教えてください。

「カップ麺の具材を製造するラインのオペレーション(写真1)、食品の品質管理(写真2)などが現在の主な仕事です。わたしは、豆乳に凝固剤を混ぜて固める工程を担当しています。人の口に入るものを製造しているの、衛生面には特に気を付けて取り組んでいます」

地元で働いていることに対し、特別な思いはありますか？

「わたしは、ずっと三重で育ってきました。休日に遊べる地元の友人がいたり、気分転換ができるのも地元で働く魅力だと思います。それが仕事へのモチベーションにもつながっていますね」

——やりがい

「製造した食品は、最終的に選別して製品として出荷されます。選別の際、食品ロス(廃棄分)は必ず出るものなのですが、それが少なかったときにやりがいを感じますね。食品ロスが少ないということは、自分が作った製品がより多く人々にいきわたるといふこと。そのことに仕事のよさを感じます」

——なるためには

「製品などを運ぶ際にフォークリフトを使うので、フォークリフト免許を取得しておくこと仕事に役立ちます。わたしは仕事を始めてから取得しました。製造業は、さまざまな機械を触ることが多い仕事。機械の種類は違いますが、高校でいろんな機械を触ることができたのは、仕事にとっても役立っていると感じます。あとは、高校でも『報告・連絡・相談』を意識して生活をしていくと、社会に出たときに役に立つはずですよ。お忙しいところ、ありがとうございます」

増田 亮太郎 さん

平成7年生まれ

出身高校 四日市工業高等学校

- 18歳 軽音楽部に所属し、バンド活動に没頭した高校時代。
- 19歳 高校卒業後、太陽化学に入社。さまざまな食品の製造工程を経験。
- 20歳 食品製造という仕事を通して、地元三重で社会に貢献中！



写真1

AMBITIOUS #059  
三岐鉄道株式会社  
バスガイド

## 常に笑顔 😊

### 勤務先情報/ 三岐鉄道株式会社

- 住所 四日市市富田3-22-83
- URL <http://www.sangirail.co.jp/>
- 勤務時間 運行指示書による(所定8時間)
- 休日 週休2日

アンビ  
ジャス的

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 歴史や地理の勉強に励む→高校卒業→旅行業を営む企業に入社→バスガイドとして勤務



### 学生時代

「高校時代の思い出といえば、3年生のときの文化祭ですね。友達と一緒に、ステージでAKB48の曲を歌って踊ったことが記憶に残っています。バスガイドをめざしたきっかけは、進路相談で先生に『あなたの性格だったら、バスガイドに向いていると思うよ』と言われたから。もともと人と関わる仕事がしたいと思っていたので、バスガイドの会社を見学して回りました。三岐鉄道は会社の雰囲気もよかったですし、家から通える場所だったので、就職先を選びました」

### 仕事について

「最初に地理と歴史のテストがあったのですが、昔から歴史は苦手であまりできませんでした…。仕事を始めてから、歴史上の人物やその人が何をしていたのかなど、教科書を読み直して勉強した感じです。そのなかで、『歴史って楽しいな』と思うようになりまして。いまでは、『ガイドさん歴女(※)でしょ』って言われることもありますよ(笑)。ほかに、バスでの立ち姿やマイクの持ち方、言葉づかいなども学びました」

### 下積みについて教えてください。

「最初は、先輩のバスに2人乗務し、仕事をする姿を見て勉強しました。乗務中は、どういふことをしているのか? 話し方などを間近で勉強させてもらいました。最初は緊張してうまくいかないことも多かったのですが、経験を積むことで落ち着いてガイドできるようになりました」

バスガイド



### 現在の仕事内容を教えてください。

「バスガイドは、お客様が旅行をより楽しむためのサポート役。わたしがバスに乗ることで、『これから行く場所には、こういう見所がありますよ。こういうおいしいものがありますよ』と紹介することができ、旅行の楽しさを倍増させることができる仕事だと思います」

### 心がけていることは?

「ただ覚えた観光情報を伝えているだけでは、お客様は楽しくないと思うんです。それよりも、『四日市のおいしい食べ物といえば何?』と質問してお客様に答えてもらう。『だいたい』とんてき!』って、お客様から返ってくるんですよ。そういう、お客様との会話のキャッチボールを大切にしています」

### やりがい

「お客様から『ガイドさんのおかげで楽しい旅行になったよ。ありがとう』と言われたときは、仕事をしていて良かったなあという気持ちになりますね。旅行の合間に、『説明がうまいね』とガイドの仕方を褒めてもらったときもうれしかったです」

### なるためには

「特に必要な資格はありません。バスガイドをめざすのであれば、歴史と地理は勉強しておいて損はないと思いますよ。あと、わたしがバスガイドとして働くうえで絶対になれないようにしているのが、『笑顔』です。『笑顔が嫌い』って言う人はいないと思うので、お客様に楽しい雰囲気や伝わるよう常に心がけています。学生時代は、早寝早起きを心がけ、規則正しい生活を送ってくださいなね。笑顔も忘れずに(笑)！」

お忙しいところ、ありがとうございます。

## 藤崎 亜依さん

平成5年生まれ

出身高校 いなべ総合学園高等学校

18歳 先生からのアドバイスもあり、バスガイドを志す。

19歳

三岐鉄道に入社。先輩からバスガイドとしての基礎を学ぶ。

22歳

お客様がより旅行を楽しめるよう、いつも笑顔でサポート中!



※歴女：歴史好きの女性を指す造語

AMBITIOUS #060  
井村屋株式会社  
アイス開発者

# 自由な発想 自由な挑戦



アンビ  
ジャス的

## 勤務先情報/ 井村屋株式会社

- 住所 津市高茶屋七丁目1番1号
- URL <http://www.imuraya.co.jp/>
- 勤務時間 8:00~17:00
- 休日 土曜日、日曜日、祝日

## なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→さまざまな経験を積む  
→アイスを製造・開発する企業に入社→開発部署に配属

アイス開発者

## —学生時代

「昔から人を笑わせるのが大好きで、高校生のころはコンビを組んでお笑いの大会に出ていました。学園祭では、バンドを組んで歌ったりもしましたね。将来の目標は、芸能界に入ることに。『上京したらチャンスが掴める』と思い(笑)、とりあえず東京の大学をめざしていました」

大学時代について教えてください。

「生き物が好きだったこともあり、法政大学の生命科学部に進学しました。そのころに人參の生育阻害が起こる新種ウイルスが北海道で発見され、卒論は、そのウイルスについて研究しました」

## —仕事について

「大学2年のときに歌手オーディションに合格したのですが、相方が途中で逃げちゃって…(笑)。それを機に芸能界の夢はあきらめました。もともと地元が好きで、三重の活力につながる仕事がしたいという思いもありました。大学卒業後は、三重に戻って井村屋に入社しました」

研修について教えてください。

「ようかんなどの菓子類、肉まん、あんまん、アイスなどの製造工場です。さまざまな工程を経験しました。印象的なのは、弊社の強みである小豆の製造工程。大きな釜でまとめて炊いていると思うのですが、意外にも手作業で手間ひま掛けた製法で作っていたんです。歴史を感じましたし、素人目ですが職人技のように映りましたね。研修後は、開発部の加温冷凍チームに配属されました」



## 先輩に教わったことは？

「先輩からは、『わかっていることでも質問をしる』とよく言われました。わかっていることを質問したとしてもそれに対して1の答えが返ってくるのではなく、プラスαでいろんな知識が返ってくるんです。これはいまでもよく言われますね」

現在の仕事内容を教えてください。

「お客様の『おいしい!』の笑顔をつくることがわたしの仕事。市場調査をもとに、さまざまな切り口でアイスの新商品企画を立て、原料の選定や販売価格などの試算をします。企画が通ったら、一番おいしくできる原料の配合などを考えて試作を繰り返します。さまざまな会議を経て、最後に会長や社長の許可が下りたものを新商品として発売します」

## —やりがい

「わたしが携わった新商品を食べた友達から、『あのアイスおいしかったよ』という声を聞くとうれいいですね。生の声を聞いたときに一番やりがいを感じます。今後の目標としては、あずきパーを超えるような看板商品を開発したいです」

## —なるためには

「アイス製造に必要な知識は、仕事をしながら定着していきます。アイスと関係ない雑学、遊びや旅行なども大事にしようと思う。そういった経験が商品開発をするうえで必要な『自由な発想』につながっていくと思います。学生時代、当たり前ですが勉強はしっかりしてくださいね。そして、余った時間で部活や趣味に打ち込んでほしいし、偏った考え方や発想にならないよう自由に生きてください!」

お忙しいところ、ありがとうございます。

## ひ おき はる のぶ 日沖 晴信 さん

平成3年生まれ 法政大学生命科学部卒業

出身高校 桑名高等学校

18歳 人前に立つのが大好きな高校生。芸能界をめざし上京する。

22歳 地元三重の活力となる仕事がしたいと考え、三重に戻り井村屋へ入社。

24歳 「おいしかった」という一言のため、さまざまな新商品の開発に励む日々。





AMBITIOUS #061  
**マスタエンタープライズ株式会社**  
 溶接技術者(住宅)

# 自分自身の為に!!

## 勤務先情報/ マスタエンタープライズ株式会社

- 住所 三重郡菟野町竹成2622-13
- 勤務時間 8:25~17:30
- 休日 土曜日、日曜日

ア  
ン  
ビ  
シ  
ャ  
ス  
的

### なるためには

- 必要資格 / 溶接技能者資格
- 主な進路 / 高校卒業→住宅鉄骨部材の溶接・組立てをおこなう企業に入社→溶接技能者資格を取得

### 学生時代

「熱中していたことは、バスケットボールですね。小学生のころから部活でやっていて、高校でも部活中心の生活を送っていました。部活を通して、人との関わり方やチームワークの大切さを学びました」  
**高校時代、将来のビジョンはもっていましたか？**

「将来のビジョンは、まったくもっていませんでした。いま働いている会社との出会いは、高校生のときに参加した就職案内のイベント。最初は『溶接ってどんな仕事なんだろう?』という感じでした。でも、社長の話を聞くなかで溶接に興味をもち、住宅鉄骨部材の溶接・組立てをおこなうマスタエンタープライズに入社しました」  
**仕事について**

「入社後の研修では、社会人としての基礎、溶接に関する基礎を学びました。溶接をするのは、このときが初めて。工具の使い方など、技術面や安全面について、一から研修で教わりました。最初は、溶接機を使って鉄にプレートを溶接して取りつける練習の繰り返し。溶接技能者資格を取得後、初めて製品の溶接に携われるようになりました」  
**溶接をするうえで大切なことは?**

「仕事をするなかで、溶接をするときの姿勢が重要だと気づきました。人それぞれ違うんですけど、作業しやすい姿勢があるんですよ。ほとんどの場合は、ピンと背筋を伸ばして作業するようにしています」

溶接技術者



### 現在の仕事内容を教えてください。

「住宅の屋根を作る小屋組みトラス(※)の部署で働いています。作業は、前加工・組立て・本付けに大きく分かれます。まずは、前加工で鉄骨部材にプレートなどを溶接し、それを組立てていきます。最後に組立てたものを溶接(本付け)し、屋根になる鉄骨の骨組みを作ります。ぼくは主に本付けを任されています」  
**心がけていることは?**

「安全第一」ということですね。朝は毎日、準備体操やKYT(危険予知トレーニング)をおこなっています。KYTでは、作業風景の絵を見て『どこに危険が潜んでいるか?』『どういふ対策が必要か?』をみんなで話し合います。その積み重ねが、体の動きや意識も含めて安全に向かっていると思います」  
**やりがい**

「入社時は、本当にわからないことだらけでした。でも経験を積み重ねて、一つひとつの仕事を理解してできるようになっていきました。自分自身の成長を実感したときに、仕事のやりがいを感じますね」

### なるためには

「入社時に必須というわけではありませんが、溶接の仕事をするなら溶接技能者資格が必要になってきます。資格試験には、学科試験と実技試験があります。ぼくは、入社後すぐに取得しました。あとは、仕事をするうえで『人との関わり』がとても大事だと感じています。ぼくは学生時代、部活を通して人との関わり方を学びました。みなさんもさまざまな活動や行事を通して、協調性などを養っておいてください」  
**忙しいところ、ありがとうございます。**

## 黒川 綾太 さん

平成6年生まれ

出身高校 石薬師高等学校

- 18歳 バスケットボール部に所属し、部活に熱中。チームワークの大切さを学ぶ。
- 19歳 高校卒業後、マスタエンタープライズに入社。一から溶接の基礎を学ぶ。
- 21歳 常に「安全第一」を心がけ、日々の溶接作業に取り組む。



※トラス：鉄骨部材が三角形に組まれた骨組みの構造物のこと

AMBITIOUS #062

ハンドボール選手(三重バイオレットアイリス所属 / www.mie-visc.jp)



ハンドボール選手の道に進んだ経緯を教えてください。
「部活を引退後、母校の先生に会いに行ったら、『教員採用試験に受かっているわけではないし、地元バイオレットアイリスなら、体育講師をしながらでもハンドを続けられるんじゃない?』と言われたんです。バイオレットアイリスは、大学のときに合同合宿をしていたので、日本ハンドボールリーグに参加しているチームということは知っていました。恩師の話聞き、やっぱりチャンスがあるならレベルの高いところで挑戦したいと思い、ハンドを続けることを決めました」

調子がいいときも悪いときも絶対まわりに仲間がいてくれるのは、チームスポーツのいいところ。仲間と一緒にやるのが好きでやっていると試合があるの、基礎体力を落とさないようにウエイトやアジリティ(※)のトレーニングを取り組んでいます。ハンドボール選手としての活動以外にも、四日市四郷高校と四日市西高校で保健体育の講師として仕事をしています」

「ハンドボールは、自分一人でやっているわけではありません。自分の調子がいいときも悪いときも絶対まわりに仲間がいてくれるのは、チームスポーツのいいところだと思います。自分がつないだパスで仲間が得点を決めてくれたり、仲間がつかないでくれたパスで自分が得点を決めたり、そして、仲間と一緒にやるのが瞬間にやりがいを感じます。それは、ハンドを始めたころと変わっていませんね」

「学生時代は、ハンドに對する意識が変わりましたか?」
「学生るときよりも結果を求められていると思います。なかなか結果が出ずに苦しむこともあるんですけど、だからこそ結果にこだわります。もちろん学生るときも勝ちにこだわっていましたが、いまは結果に對する意識が強くなっている気がします。試合に出たいのはみんな一緒でもコートに立っているのは7人だけなので、コートに立つことに對する責任も考えるようになりました。応援してくれるファンも大歓迎です」

「ハンドボールは、自分一人でやっているわけではありません。自分の調子がいいときも悪いときも絶対まわりに仲間がいてくれるのは、チームスポーツのいいところだと思います。自分がつないだパスで仲間が得点を決めてくれたり、仲間がつかないでくれたパスで自分が得点を決めたり、そして、仲間と一緒にやるのが瞬間にやりがいを感じます。それは、ハンドを始めたころと変わっていませんね」

「学生へのメッセージ」
「ハンドボール選手になるには、スカウトされて入ってくる人もいますし、トライアウトを受けて認められて入る人もいます。まずは、自分のなかで強みとなる部分をしっかりと理解し、ブレずに努力しつづけて



調子がいいときも悪いときも絶対まわりに仲間がいてくれるのは、チームスポーツのいいところ。仲間と一緒にやるのが好きでやっていると試合があるの、基礎体力を落とさないようにウエイトやアジリティ(※)のトレーニングを取り組んでいます。ハンドボール選手としての活動以外にも、四日市四郷高校と四日市西高校で保健体育の講師として仕事をしています」



YOUTH ユースフラッシュ FLASH

三重出身の有名人インタビュー

四日市四郷高等学校出身のハンドボール選手、万谷由衣さんを独占取材!

あと一步のところまで手が届かなかったオリンピック出場権。残念な結果でしたが、おりひめジャパン(女子ハンドボール日本代表)からは、高い目標に挑戦するすばらしさを教わったように思います。ハンドボール中心の人生を歩み、三重バイオレットアイリスに所属する万谷選手にハンドボールに対するアツい思いを聞いてきました。

第3弾

「学生時代」
「ハンドボール(以下、ハンド)は、兄の影響で小学生のときに始めました。ハンドをやっていた兄の送り迎えに親が行ったとき、「低学年の試合で人数が足りないから出てくれ」と言われて出たのがきっかけです。2年生からはチームに入り、本格的にハンドを始めました」
「高校時代の思い出は?」
「ハンド部での思い出は、三重県で2位。完全にハンド中心の生活でした。四日市四郷高校は、三重県です。2位。晩高校が20年以上連続で優勝してインターハイに出場していたんです。打倒晩高校を果たすため、予選が近くなると先生の意向で「想像で晩高校と試合をし勝ったときのイメージを作る」というイメージをよくしていました」
「その結果、晩高校に勝てましたか?」
「1、2年のときは勝てなかったんです。3年のときに初めて決勝戦で晩高校に勝てました。そのときは、イメージ通りによくやることのできたんです。先生が「もうやめろ!」と言って、わたしはそれを止めたんです」
「決勝で念願を果たしたの?」
「先生は、ずっと2位を経験してきました。負けの悔しさを一番理解していたからなんです。負けて悔しがる晩高校の選手の気持ちがよくわかるから。『よるこぶのはあとにしよう』と言ったんです。先生の思いやりをすごく感じました。そのときのことが一番心に残っていますね」

「大学時代について教えてください」
「体育の教員免許を取得したいという思いがあり、天理大学の体育学部に進学しました。関西リーグを高校生のときに見に行き、その雰囲気にも惹かれました」
「どのようなことを学びましたか?」
「栄養学やスポーツ医学など、スポーツに関する座学がたくさんありましたが、実技ではいろいろな種目のスポーツを経験しました。教職課程では、教育心理学なども勉強しました」
「教育実習にも行きましたか?」
「教育実習は、母校に行きました。まわりの先生にフォローしてもらいながら、なんとか3週間やり遂げることができた感じですね。まわりの話では、『厳しくてもう無理や!』って戻ってくる人が多いと聞いていたんですけど、わたしには、すごく楽しい経験でした」
「ハンドボール選手へ」
「当時はハンドボール選手になるなんて考えてもなくて、体育の教師をめざしていましたが、ハンドは、もう大学で終わらだと思っていました。大学の部活は、練習なども自分たちで考えて実践していく感じだったので、その分チームの方向性でもめることも多かったんです。結構しんどかったんですけど、苦笑。最後は、なんとかみんなが気持ちよくまとめたので、部活に取り組みすることができました。『やりきった!』という解放されたような気持ちがありました」

Profile card for 万谷由衣さん (Ayumi Maniya). Includes birth date (平成元年), graduation (天理大学), and career highlights (18歳: 決勝で打倒晩高校, 22歳: 大学卒業後は地元に戻り, 26歳: 支えてくれる人たちに感謝).

※アジリティ: 俊敏性や機敏性を養うトレーニングのこと

AMBITIOUS #063  
株式会社中村製作所  
製造(チタン製印鑑)

# チャレンジ精神!!

## 勤務先情報/ 株式会社中村製作所

- 住所 四日市市広永町1245
- URL <http://www.nakamuraiseisakusyo.co.jp/>
- 勤務時間 8:00~17:00
- 休日 土曜日、日曜日

アンビ  
ジャス的

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→精密部品の加工をおこなう企業に入社→切削工具やプログラムについて学ぶ→製造部署に配属

製造

### —学生時代

「高校時代はサッカー部に所属し、部活中心の生活を送っていました。相手が強ければ強いほど燃えまじたし、全国大会をめざしてチーム一丸となって頑張っていましたね。部活を通じ、チームワーク精神や最後まであきらめない心を養うことができたと思います。当時、将来のビジョンは特にありませんでした」

「大学時代について教えてください。」

「中央大学の経営学部に進学し、経営学を中心に産業組織論などを学びました。大学でも、サークルに入ってサッカーを続けました。愛知県リーグにも参加しましたし、サークルでの経験も思い出に残っています。就職活動も始めたのは、3年次の終わりごろから。将来は地元で働きたいという思いがあったので、企業説明会は地元三重のものを中心に参加しました」

「仕事について」

「大学卒業後、一旦は自動車の販売営業の仕事に就いたのですが、友人の紹介で、治具・工具など精密部品の加工をおこなう中村製作所に転職しました。23才のときですね」

「中村製作所に入社後の研修について教えてください。」

「研修は、3ヶ月ほどありました。製造に関する知識もまったくなかったんで、ドリルやエンドミルなどの切削工具の使い方、プログラムの組み方などを一から覚えていく感じでした。加工条件に合わせた切削工具の選定なども教わりました」



「現在の仕事内容を教えてください。」

「主にSAMURAIというブランドでさまざまなチタン製の印鑑を製造しています。用途は、個人用、法人用などさまざま。お客様から注文をいただいたら、弊社デザイナーが専用ソフトを使ってプログラムを組み、チタンを切削(せっさく)して一つの印鑑を製造していきます」

「仕事をしながら大切にしていることを教えてください。」

「仕事をするうえで大切にしているのは、『チャレンジ精神』ですね。例えば、チタンなどの削りにくい難削材の加工依頼を受けた際、刃の材質や切削の際に使用する油まで条件に合わせて変え、工夫をこらして試行錯誤しながら実現できるような戦っています。弊社は、『空気以外なんでも削ります。』と、うたっていますからね(笑)」

「やりがい」

「難しいのは難しいけど、その加工をやり遂げたときに感じる達成感も大きいですね。高校時代の部活と同じです。難易度が高ければ高いほど燃えてくるんですよ!」

### —なるためには

「図面を見て計算する機会も多いので、数学など理数系が得意な人に向いている仕事だと思っています。あとは、チームワークも大切。誰もが得意、不得意な分野があると思います。ばくも不得意な部分は誰かに手伝ってもらうことがありますし、逆に誰かが苦手な仕事をばくが手伝うこともあります。ばくは、こうしたチームワークを部活で学びましたが、みなさんも学校行事などさまざまな場面で学んでください!」

「お忙しいところ、ありがとうございます!」

## むら やま かず き 村山 和希 さん

昭和63年生まれ 中央大学経営学部卒業

出身高校 海星高等学校

18歳 サッカー部に所属し、部活漬けの毎日を送る。中央大学に進学。

23歳 中村製作所に転職。切削工具やプログラムについて学ぶ。

27歳 難易度が高いほど燃える性格。常に創意工夫をこらし、何事にも挑戦中!





AMBITIOUS #064  
鈴鹿ヴォイスFM  
ラジオディレクター

# 一期一会 その時の出会いを大切に!

## 勤務先情報/ 株式会社鈴鹿メディアパーク

- 住所 鈴鹿市住吉町8947
- URL <http://www.suzuka-voice.fm/>
- 勤務時間 9:00~18:00
- 休日 週休2日制

### なるためには

- 必要資格 / 第1級陸上特殊無線技士 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→専門学校や大学で放送や音響について学ぶ→コミュニティ放送局に入社

アンビ  
ジャス的

ラジオディレクター

### ——学生時代

「放送部に所属していて、高校生活の中心は部活動でした。先輩たちが作った部活紹介の映像を見て、『高校生でも、こんなことができるんだ!』と興味をもったのが入部のきっかけです。NHKの全国高校放送コンテストに参加し、ラジオドキュメント部門は県大会で最優秀賞をいただき、全国大会にも出場できたことも思い出に残っています。先生と相談しながら企画を立て、『命の大切さ』をテーマに取材からナレーションも自分たちでおこないました。番組制作に携わる仕事をしてみたいと思ったのも、部活動での経験が大きいですね」

### ——専門学校で学んだことは?

「名古屋工学院専門学校に進み、映像や音響の勉強をしました。特に印象に残っているのは課外授業。高校の文化祭や演劇、地元のお祭りなど、さまざまなイベントを音響や照明の分野で支援しました。そのなかで、どんなことがあっても挫けない心、精神力が鍛えられたと思います」

### ——仕事について

「専門学校卒業後、鈴鹿ヴォイスFMに入社しました。入社前の1月から3月までがインターン期間。放送機械の操作知識は高校時代で止まっていたので、インターンを通して改めて覚え直しました。音のビットレート(※)の合わせ方、音のノイズの消し方や加工の仕方など、音響機材についても覚えることがたくさんあって最初は大変でした」



### 仕事内容を簡単に教えてください。

「放送に関するなんでも屋さんですね(笑)。番組を企画し、原稿を書き、取材に行き、CMではナレーションを入れたりもします。収録から編集、運行データの作成まですべての作業をおこなっています」

### 地元で働くことに対する特別な思いを教えてください。

「当局では、昨年から鈴鹿サーキットの実況中継をおこなっています。コミュニティ放送局なので、こうした地域に寄り添った鈴鹿ならではの番組を作っていきたいですね。あと忘れてはいけないのが防災ラジオとしての役割。災害時何があっても局にきて緊急放送をしないとダメなんです。地域の安心安全を担っているという責任感も感じますね」

### ——やりがい

「大きな放送局だと、編集は編集担当、音響は音響担当って仕事に分担されちゃうと思うんです。でも当局では、自分の手で最初から最後まで番組を見届けられる。それもこの仕事の魅力ですね。『ラジオを聴きましたよ!』と放送の反響を言ってもらえたときも嬉しいです」

### ——なるためには

「やる気さえあれば、専門的な知識や技術はあとからついてきます。わたしがい見本ですよ(笑)。必須ではありませんが、第1級陸上特殊無線技士などの資格を取得していることと仕事の役に立つかもしれない。学生時代は、何か一つ、熱中できるものを見つけてほしいですね。今のわたしがいるのも、部活動に熱中していた自分からなんです。アツい情熱をもって高校生活を過ごしてください!」

お忙しいところ、ありがとうございました。

## なか みち みき 中道 美希さん

平成2年生まれ 名古屋工学院専門学校卒業

出身高校 鈴鹿高等学校

- 18歳 放送部に所属したことがきっかけで、番組制作の仕事に興味をもつ。
- 20歳 鈴鹿ヴォイスFMに入社。放送や音響に関する知識を一から覚え直す。
- 25歳 鈴鹿だからこそできる内容を考え、地域に寄り添った番組を放送中!



※ビットレート：1秒あたりのくらの情報量で表現されているかを表す表現

# 噂の HERO

## 連続ドラマ「相棒」にみる「警察官」という仕事。

「地域を守る仕事は？」と言われてたら、警察官を思い浮かべる人も多いはず。さまざまなメディアで取り上げられることも多く、みんなが憧れる警察官。先入観をもってしまいがちな警察官だが、実際はどのような仕事なのだろうか？

「相棒」は、テレビ朝日・東映の制作でシリーズ化されている刑事ドラマである。派生作品として、劇場版3作とスピンオフ映画2作が公開されている。

主人公は、優秀なキャリアながらも、その変人ぶりから警視庁内の窓際部署「特命係」に所属している水谷豊さん。演じる杉下右京、杉下右京は、自身の下についた相棒とともに、推理力と洞察力を駆使してさまざまな事件を解決していく。

さまざまなメディアで取り上げられることも多く、みんなが憧れる仕事の1つである警察官。「警察官の仕事内容、難しさ、やりがい、学べること」を、桑名警察署大田山交番で警察官として働く小笠原さん

大学時代のことを教えてください。高校卒業後は、愛知学院大学の法学部に進学しました。大学で学んだのは、主に法律関係の知識。民法や刑法、刑事訴訟法などを中心に勉強しました。ゼミでは、国家間の関係を規律する国際法について学びました。国際法をもとに、世界情勢をみんなで議論したりもしましたね。大学で学んだ法律は、警察官として働く現在も役立っていますか？

### 仕事について

「警察官採用試験に合格後、大卒者は半年間、警察学校に入ることになります。警察学校では、警察官として必要な知識の勉強、体力づくりが中心。柔道や剣道、逮捕術の訓練もありました。体力的につらいことも多かったです。最後まで乗り越えることができたのは、同期の支えがあったからだと思います。集団で行動することの大切さも学ぶことができました」



警察学校卒業後は、みなさん交番勤務を経験するのですよね？

「そうですね。交番では、交通事故や刑事事件をはじめ、警察業務のさまざまな分野を幅広く取り扱うので、最初は交番勤務を経験することになります。将来は交番勤務での経験をいかし、DV(ドメスティックバイオレンス)やストーカー、少年犯罪などを取り扱う生活安全課で働きたいと思っています」

### 現在の仕事内容を教えてください。

「現在、わたしは交番で勤務しています。わかりやすく説明すると、「地域のおまわりさん」ですね。地域に根ざし、地域の方が一番身近に感じられる存在だと思います。具体的な仕事を挙げると、遺失届や拾得届の対応、一軒一軒家庭を訪問する巡回連絡では、不審な出来事がないかを確認したり、「こういう事件には気をつけてください」と注意を促したりしています。あとは、交番の外で付近の警戒をする立番、パトカーに乗って街をパトロールすることなどが主な仕事ですね。事件や事故の通報があった際は、すぐ現場に駆けつけ、現場にいる人から状況を詳しく聞いたり犯人を検挙する初動対応も重要な仕事です」

### 最初に先輩から教わったことは？

「先輩からは、「仕事に大きい小さいはない。どの事件も同じように一生懸命取り組みなさい」と教わりました。その言葉を胸に、どんな現場でも、一生懸命にねいに対応することを心がけています」



### やりがい

「楽しいことはもちろん、つらいこともたくさんありますが、警察官はどんな仕事よりもやりがいがあると感じています。落とし物をされた方が「落とし物って届いてませんか？」と交番に来たとき、「届いてますよ」と、お返ししたときに見せる安心した姿。そういう姿を見ることができたときが、仕事のやりがいを感じる瞬間ですね」

### なるためには

「まず、警察官採用試験に合格する必要があります。その後、大卒者は半年間、高卒者は10ヶ月間、警察学校に入ることになります。わたしは法学部で法律の基礎を学んだことが役立ったと感じています。法学部以外の人もたくさんいます。それから、警察官には体力も必要。警察官をめざすなら、今のうちに体力づくりをしておいた方がいいです。筋トレやランニングなど、少しずつでもいいので頑張ってください」

### 最後にメッセージをお願いします。

「この仕事は、何かにアツくなりた人、誰かの役に立ちたいと思える人」に向いています。学生時代、

本当の敵は  
自分自身



## AMBITIOUS #065 警察官

紹介企業情報 / 三重県警察本部

- 住所 津市栄町1-100
- URL <http://www.police.pref.mie.jp/>
- 勤務時間 交代制勤務(部署による)
- 休日 月10日程度

アンビ  
ジャス的

### なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校または大学を卒業→警察官採用試験に合格→警察学校に入校→交番勤務

## 小笠原 香織さん

平成3年生まれ 愛知学院大学法学部卒業

出身高校 暁高等学校

- 18歳 兄が自衛官だったこともあり、将来は人の役に立つ仕事を志す。
- 22歳 愛知学院大学の法学部に進学し、法律を中心に学ぶ。
- 24歳 大田山交番に勤務。地域のおまわりさんとして、日々の仕事に精を出す。



勉強はもちろん大切ですが、部活をしたり友達と遊ぶことも同じくらい大切です。わたしは地元三重に対する愛着もありますし、地域の方々が安心して生活できる街にしたいと考えています。働くなかで感じるのは、「本当の敵は自分自身」ということ。わたしは、いつも自分の中にある弱い消極的な部分を克服し、尻込みせず積極的に前に出るよう心がけて仕事に臨んでいます。これからも、自分自身に負けないよう頑張っていきたいです！

お忙しい中、ありがとうございました。